Moreish

Luis Lopes ルイシュ・ロペシュ



ルイシュ・ロペシュはポルトガルで醸造学を修め、ブルゴーニュやニュージーランド、ドイツで研鑽を積んだのち2006年に帰国。ダォン地方で研ぎ澄まされた経験を重ねてきた醸造家である。2013年、自身のレーベル「モーリッシュ」を立ち上げ、買いブドウから少量のワイン造りを開始した。名前は英語の"Moreish"に由来し、「杯が進むワイン」を目指す彼の哲学を映している。2019年からはバイラーダ地方コインブラ近郊の畑から、石灰質土壌に育つビカルやフェルナン・ピレシュを主体に、垂直的な輪郭をもつ白を仕立てる。除草剤を使わず耕されてきた畑を選び、栽培家と信頼を築きながら畑から関与する姿勢を貫く。醸造は友人の小さなワイナリーを間借りし、極力介入を避けつつも必要に応じて判断を下す。透明感と飲み心地を追求しながら、気軽さの裏に品位を湛えるワインが彼のスタイルである。

	○Moreish Branco モーリッシュ・ブランコ					モーリッシュとは英語でMore+ish、 「つぎつぎと杯が進む、もっとほしく
MOREISH	畑	品種:ビカル、マリア・ゴメシュ 植樹:1980年代 位置:東・西向き斜面 土壌:粘土質、石灰質	醸造	ステンレスタンクで約3週間醗酵、マセレーションはしない ステンレスタンクで約8ヵ月間熟成	備考	なる」といった意味。本人は自分のワインをglou glou (仏語で"ごくごく"と喉の鳴る音) なワインだというが、上品な果実味と、白い花、アーモンドの余韻が長く続く、品位を感じるワイン。 ペリクラール(マリア・ゴメシュ)を単一醸造する年は、ビカルのみで醸造、そのほかの年はビカルとマリア・ゴメシュをブレンドしてリリースされる。
	○Moreish Branco Pelicular モーリッシュ・ブランコ・ペリクラール					
Moreish	畑	品種:マリア・ゴメシュ 植樹:1980年代 位置:東・西向き斜面 土壌:粘土質、石灰質	醸造	除梗後足で破砕して約6~10日間マセレーション、その後プレスした果汁のみ木樽で4週間醗酵、温度コントロールあり 木樽で約6ヵ月間澱とともに熟成	備考	モーリッシュと同じ畑のマリア・ゴメシュを使用。ブドウはルイシュの妻が足で破砕している。清澄なし。わずかに澱が舞っている。 2022VTから、名称を「マセラサォン」から「ペリクラール」に変更した。
	○Moreish Branco - Monte ilha モーリッシュ・ブランコ モンテ・イーリャ					
Moreish 2022	畑	品種:アリント100% 植樹:2010年代 位置:標高250m、南西向き 土壌:花崗岩質土壌	醸造	マセレーションなし 木製樽で醗酵 木製樽で15ヵ月間以上熟成	備考	2022VTは原料のアリント種はダオン 産のもの。樽はシェリー酒(アモン ティリャード)の熟成に使われていた 60年物の古樽で発酵、熟成させた。

More*sh	畑	● Moreis モーリッシュ 品種:カシュテラォン・ナシオナル主 体、トリンカデイラ・プレタ、バガ 植樹:1970年~1980年頃 位置:東向き、西向き斜面 土壌:粘土質、石灰質	1 • 7		備考	コインブラ近くの農家からの買いブドウで醸造。エチケットに記載された「Souzelas」は、ブドウが栽培された特の名称。 主体となるカシュテラォン・ナシオナルは、ポルトガルで多く栽培されているカシュテラオンとは異なる品種。バイラーダ、ダオン、トラズ・ウズ・モンティシュ等のエリアで古くから栽培されていて、カマラテとも呼ばれる。バガのようなタンニンと酸のバランス
2022	● Moreish Común モーリッシュ・コムン					の良さを持つが、より軽快で赤い果実 味が特徴。 ルイシュがスペイン・エストレマ
M.ore sh		品種:ガルナッチャ・コムン 植樹:2016年~2017年 土壌:粘土質、石灰質	醸造	コンクリートタンクで醗酵 600Lのフレンチオーク樽で熟成	備考	ドゥーラ州で手掛けるプロジェクト。 ボデガス・パラシオ・ケマードの所有 する畑に新しく植えたガルナッチャ・ コムンでの醸造。以前このプロジェク トを担っていたエンビナーテから、ル イシュが引き継いで醸造した。 エチケットのデザインはVTにより 異なる。